



## JA佐渡27年産米初検査

9月9日に、JA佐渡米の初検査が畑野検査場で行われました。早生2品種(こしいぶき、五百万石)合計808袋を検査し、1等米比率は93.3%、粒張り及び粒揃いは平年並みの評価でした。品質状況は一部にカメムシによる被害があり、また、こしいぶきには高温の影響と思われる基部未熟粒と背白粒の複合した未熟粒の混入が見られました。「これから収穫期のピークを迎えるこしいぶきは適期刈取りに注意することと、適正な乾燥と適正な流量による丁寧な調製作業が重要」との講評がされました。

## 佐渡米未来プロジェクト「品質向上90」刈取り指導会

が9月3日~10日まで、佐渡の各地区のほ場で開催され、述べ600名の生産者が参加しました。

指導会において、「刈取りの目安については、籾の90%が黄化した時が“刈取り適期”となります。地域差、ほ場差が大きいため、刈取適期判定器が設置してある場合でも、機械の数値に頼らず必ずほ場ごとによく確認して刈遅れに注意してください」との説明がありました。また、丁寧な乾燥調製作業を行い、胴割れ・肌ずれ・籾混入などの、格落ちを発生させないように、注意を呼びかけました。

9月下旬には、コシヒカリの刈取りが適期になるとの予想が出されていました。



## JA佐渡カントリーエレベーターの受入が9月1日から

始まりました。今年から、新規需要米の飼料用米「新潟次郎」の受入を行っています。昨年のカントリーの取扱量は3600ト(乾燥籾)でした。9月上旬にはこしいぶき、中旬からはコシヒカリの受入がはじまり、連休には、受入最盛期になると予想されます。



## 農事組合法人 大和田生産組合

佐渡金井地区の大和田生産組合(以下 生産組合)といは、地域農業の担い手不足に対応するため、平成18年に地元有志者の出資により、設立されました。経営面積は4146a、うち水稻約3200a。

生産組合は今年から休耕田を利用し、飼料用米新潟次郎35aづくりに取組んでいます。8月末から収穫を迎えました。

生産組合代表の上杉俊孝さんが「高齢化が進む中、生産組合は地域農業の受け皿の役割を果していきたいです。地元の田んぼ、畑などの農地が荒れないように自然環境を大切にしたい。大和田集落は環境に恵まれ、住みやすいところです。

現在、生産組合の従業者人数は11名です。嬉しいことに集落の担い手が少しずつ顔を出すようになり、定年になった人や仕事をもっていても草刈等を手伝うようになりました。

これからは、集落に住む若い層が、魅力と愛着を感じるような地域を作っていくことが重要で、



それは現在島外に居住する若者を呼び戻すきっかけとして、その中から将来の農業の担い手が出現する可能性もあると集落のみんなが期待しています。」と話されました。



編集人：佐渡農業協同組合

営農事業部米穀販売課 渡部・買(まい)

[beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp](mailto:beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp)

発行日：平成27年9月